

⑤【単元目標】 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

⑥【単元の言語活動】 興味をもった部分を引用して、それに対する自分の考えをまとめ、互いの考えについて気づいたところを話し合う。

（相手：4年生 目的：一人一人の感じ方や考え方の違いに気づく 方法：発表と交流 場面：交流 評価：一人一人の感じ方の違いに気付けたか）

④【教材の特徴】

・2教材とも児童にとって身近な「身体」を扱い、「初め」と「終わり」に筆者の考え、「中」が「事実」と「解説」により構成されていて、同様の考え方で取り組むことができる。

③【既習事項】

・『言葉で遊ぼう／こまを楽しむ』では、段落を知り、「初め、中、終わり」の文章構成をつかんで、感想を話すことを経験している。

②【児童の実態】

○自分の考えを書いたものをもとに、ペア交流から、自分と似ている部分異なる部分を見つけることができる。
△長い文の理解やみんなの前で話すことに抵抗を感じる児童がいる。

①【重点とする指導事項】

・筆者の考えに対する自分の考えを発表し合い、感じ方の違いに気づくこと。
読むこと (1) オ

⑦【言語活動成立の要件】

ア 文章全体の構成において、「初め」と「終わり」における筆者の考え、「中」における筆者の考えの根拠となる「事実」と「説明」の部分、およびその関係を理解することができる。
イ 自分の考えの中心となる部分を選び、引用しながら自分の考えを書いたり、話したりすることができる。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもつ。 ・第1教材について文章全体の構成を捉え、段落相互の関係、筆者の考えの述べ方を考える。 	<p>【第2次】4時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2教材について、話題と文章構成を捉える。 ・第2～4段落について、内容を捉える。 ・第5～7段落について内容を捉える。 ・段落相互の関係を考え、文章全体の構成を捉える。興味をもったことについて、引用しながら自分の考えを書く。 	<p>【第3次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時書いたものを発表し合い感じ方や考え方の違いに気づく。 ・自分の生活を振り返る。言葉を学ぶ。 	<p>【交流活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、興味をもったことを書いて話す場を設け、考えを貯め、交流活動に慣れるようにする。
--	--	--	--

並行読書・・・工夫し、考えて、自分の求める答えを探した人の本を読み、物事の捉え方、生き方に生かす。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつも気をつけよう」や第1教材欄外▼を読み、文章全体構成や段落相互の関係をつかむ。 	<p>【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を、挿絵と照らし合わせたり、動作化で確かめたりしながら、興味関心を高める。 	<p>【第3次】 <本時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開 発表者は、興味をもったことについて、引用、感じ方、考えを話し、聞き手は自分の考えとの比較をする。 ・まとめ 自分と仲間の考えを比べて、考え方や感じ方の違いを話型を使って、まとめる。 	<p>【交流活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の考えを自分の考えと比較しながら聞き、特に違うところ（引用、感じ方や考え）を明らかにして交流をする。
---	---	--	---

⑩【支える学習環境】

・段落ごとの内容と関係が分かる掲示
・興味をもったところについての考えの書き方の例
・引用部分と考えが伝わる話し方、考えを深めるための聞き方の例 ・並行読書用図書の設定

【研究とのかかわり】

(1) 願いを明確にした単元指導計の工夫

・文章について一人一人の感じ方が異なることに気づき、そのよさが感じられるようにする。そのため、単位時間ごとに、まとめて「(本時学習した中で) 興味をもったこと」を、引用しながら書き、交流する。

(2) 考えを深めるための指導の工夫

・「①誰に②自分の立場③自分の考え」の話型を使うことで、交流を深める。特に仲間の考えは自分の考えとどこが違うのか（引用、感じ方やわけ）を聞き取り、それをもとに交流をする。
・深めの発問では、自分の考えと違う仲間の考えを見つけられたかを確認して、意識化を図る。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

・まとめでは、「①はじめの自分の考え②自分の考えと比べて違う考え（仲間の名前と考え）③2つの考えを比べて、思ったこと」を書くようにする。これによって感じ方の深まりや広がりが見られた楽しさが自覚できるようにする。

◆本時のねらい

説明文「動いて、考えて、また動く」を読み、興味をもったところを交流する活動を通して、それぞれの感じ方や考え方のちがいに気づくことができる。

◆本時の展開（7/8）

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点（☆人権教育の視点）
つかむ	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>課題 きょうみをもったところについて仲間の発表を聞き、自分の考えと同じところやちがうところを見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表者は、興味をもったところについて、前時に200字程度で書いたものをもとに、引用、感じ（共感、疑問）わけを話す。 メモは、引用部分に線、名前、感じ、わけを書く。
考える	<p>2 発表の聞き方、交流活動での注意点を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き方…発表者名と聞き取ったことを、教科書にメモする。特に、自分の考えと違うところを見つける。 交流…1人ずつ、発表後、司会をして進める。一人5分発表者と考えが似ている子から、話していく。引用、感じ方、わけの全部が違うときも、発表者の考えについて感想や分かったことを言う。＜着目の広がり、読みの深まり＞ <p>3 グループで考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> （引用）P.45L.11「忍者がぴたあっと下り坂を下りていくようなイメージで走る」（感じ）疑問（わけ）忍者のように走るのはおもしろいけれど、50mを走ったら、よけいに体が堅くなってしまったからだ。 →〇〇さんと引用は同じだけど、「やってみたら、速く走れた。」と言ったところが違っていた。何かコツがあるのかな。 （引用）P.43L.9「膝を高く上げるような、大きな動作をせずに走ったらどうなるか。」（感じ）共感（わけ）教えられた通りにやってもうまくいかずに悩んだとき、自分で考えて試している。自分で、より速い走り方を見つけ出したのが、すごいと思った。 →〇〇さんとは、引用が「人により体のつくりが違う。」で、ちがっていた。でも、わけは「自分に合ったやり方を探すことは大事だ。」と思っているのが似ていて、おもしろかった。 （引用）P.42L.3とP.47L.7「何度も成功や失敗を繰り返しながら工夫を重ねると、きっと、自分にとって最高のものを実現できます。」（感じ）共感（わけ）私もサッカーのコーチから「自分で考える。」と言われているので、やっぱり大事だと思った。何回も試しながらもっとうまくになりたい。 →僕は、〇〇さんと引用が同じでわけも似ていた。僕は野球で、もっと打てるようになりたいから、体の使い方を考えて練習してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、児童が興味をもった段落を一覧にしておき、班の仲間との交流に見通しがもてるようにする。 交流は、生活班ごとに行う。（一人5分程度） <p>☆相手の話の根拠や考え方を最後まで聞き、理解しようとする心情を育てる。「認識力」</p>
深める	<p>4 深めの発問を聞いて、自分の考えの深まりまとめる。</p> <p>自分と引用や感じ方、わけで違うところがある子を見つけられましたか。</p> <p>自分の考えとその子の考えを比べて、考えたことを、「①私は、はじめ～。②〇〇さんは、～。③2つを比べてみると、～。」のように書く。</p> <p>私は、はじめ「忍者のような走り方」が難しいと思っていた。けれど、〇〇さんは、できたと言っていた。2つを比べてみると、同じ引用でも、感じ方がちがうこともあると分かった。〇〇さんが言ったように、人の体はみんなちがうから、今やっているキャッチバレーボールのパスでも、どうすると上手にできるのか、もっと考えて練習したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> まとめでは、 A引用：同じ わけ：違う B引用：違う わけ：同じ C引用：違う わけ：違う D A～C以外 のどれになるかを意識して書くようする。
まとめる	<p>5 全体で交流し、仲間の考えが4つの中のどれに当たるか考えて聞く。</p> <p>6 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>評価規準 【読む能力】 一人一人の感じ方や考え方の違いに気づいている。（ノート・発言）</p>